

大学・学生と地域がコラボして京都のまちを活性化！！

# 学まちコラボ

## 平成30年度活動報告



公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto



京都市  
CITY OF KYOTO

京都市はSDGsを支援しています。



## 🐦 学まちコラボって??

大学・学生と地域との連携事業は、学内だけでは得られない学生の学びと成長につながります。

京都市と大学コンソーシアム京都では、魅力あふれる京都のまちづくりに貢献しながら得られる学生の学びを充実させるため、大学・学生と地域が目的を共有し一体となり、京都のまちづくりや地域活性化に資する事業を広く募集し、認定した事業に支援金（最大 45 万円）を交付して取組を応援しています。

大学・学生 × 地域  
＝地域活性化!!



|       |                      |
|-------|----------------------|
| 4月～5月 | 募集                   |
| 6月    | 審査<br>(書類・プレゼンテーション) |
| 7月    | 認定式<br>事業実施          |
| 3月    | 事業報告会・意見交換会          |

## 🐦 応募も学び!!

### 公開プレゼンテーション審査

応募団体の中から書類審査を通過した団体が、選考委員や一般来場者の前でそれぞれの取組をプレゼンテーションします。平成30年度は27件の応募のうち、書類審査を通過した24件がプレゼンテーション審査に臨みました。

各団体は工夫を凝らしたプレゼンテーションで取組をアピール。選考委員から厳しい質問が飛ぶこともありますが、どの団体もしっかりと準備を重ねてきた成果を存分に発揮します。また、連携する地域の皆さんも応援に駆け付けていただきました!



## 🐦 さあいよいよスタートだ!!

### 認定式・講評



採択された事業について、門川大作京都市長や選考委員同席のもと、認定式を開催。市長から認定証を交付され、各団体が取組に向けた決意を表明。力強くスタートを切ります。



認定式終了後には、選考委員から、採択団体それぞれに対して講評やアドバイスが行われます。



## 事業実施



## 学びの本番！！

採択された19団体が地域のみなさんとともに活動開始！！ 詳細は各事業のページを御覧ください！！

|         | NO | 事業名                                          | 団体名                                      | ページ |
|---------|----|----------------------------------------------|------------------------------------------|-----|
| 文化枠認定事業 | 1  | ソイカル from 静原<br>～京都大豆食文化の発信～                 | みらい発信局 おむすび 静原応援隊                        | 3   |
|         | 2  | ふかくさ町家シネマ～校区と記憶～                             | ふかくさ町家シネマ<br>(ふしみ・ふかくさコミュニティアーカイブプロジェクト) | 4   |
| 一般枠認定事業 | 3  | 伏見深草・東高瀬川の環境保護と<br>地蔵盆プロジェクト                 | 龍谷大学・東高瀬川の環境保護と<br>地蔵盆プロジェクトチーム          | 5   |
|         | 4  | 醍醐中山団地活性化プロジェクト                              | 京都橘大学現代ビジネス学会まちづくり研究会                    | 6   |
|         | 5  | 子ども科学教室                                      | わくわく研究室                                  | 7   |
|         | 6  | Halloween in 西院                              | Halloween in 西院実行委員会                     | 8   |
|         | 7  | 京北さとまちフェスティバル                                | さとまちフェスティバル実行委員会                         | 9   |
|         | 8  | カモシネマ 14                                     | カモシネマ 14 実行委員会                           | 10  |
|         | 9  | 北白川こども食堂「からふる」                               | 学生団体からふる                                 | 11  |
|         | 10 | 洛西竹の里団地におけるサークル的自治活動                         | 京都女子大学井上えり子研究室竹の里班                       | 12  |
|         | 11 | 都ライト' 18                                     | 都ライト実行委員会                                | 13  |
|         | 12 | そらたねプロジェクト                                   | そらたねプロジェクト                               | 14  |
|         | 13 | 高雄活性化プロジェクト                                  | 佛教大学 京都・高雄活性化プロジェクト                      | 15  |
|         | 14 | 京北宇津ふれあい学びあい                                 | 京都精華大学京北宇津宝さがし会                          | 16  |
|         | 15 | 団地のつながりをとりもどす<br>連携プロジェクト「桃陵 HANDs」          | はうすまいる                                   | 17  |
|         | 16 | 淀本町商店街ふれあいライブラリープロジェクト                       | 淀本町商店街ふれあいライブラリープロジェクト                   | 18  |
|         | 17 | 京都文教大学バスツアーズ                                 | 京都文教大学バスツアーズ                             | 19  |
|         | 18 | KOKA ☆オレンジプロジェクト<br>～高齢者・障がいがある方の「食」を支援しよう！～ | KOKA ☆オレンジサポーターズ                         | 20  |
|         | 19 | みらいアートせいかプロジェクト                              | しーかす                                     | 21  |

## 事業報告会・意見交換・交流会



## 学びを総括！！



彰しています。

様々な課題に直面しつつ取り組んだ成果は、学生と地域にとって大きな財産となり、今後の活動に活かすことでしょう。

学生が、地域の方と共に取り組んだ成果を選考委員や一般来場者の前で発表します。また、最も優れた取組を行った1団体を選び表



報告会終了後には、来場者も交えた意見交換会を行います。取組に対する質問から、アイデアの提案など活発な意見交換の場となっています。



みらい発信局 おむすび  
静原応援隊

京都市左京区静原の活性化を図るため、様々な活動を行っている。主な活動として、「静原産作物のブランド化」に向けた作物の栽培、商品開発・販売の他、地域住民と協力して「伝統文化の継承」「地域環境整備」などに取り組んでいる。



## 実施団体の紹介

## 静原自治振興会

伝統行事の運営や静原の環境整備、課題解決などに取り組む地域団体。

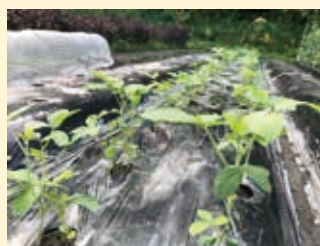
むすびわざグッズ  
制作チーム

京都産業大学の大学グッズの開発・販売に取り組む。

## 事業について

## 目的

日本の食文化である京料理。それには豆腐・ゆば・味噌などが多く使われている。しかし、その原材料となる大豆は京都での生産量が極めて少なく、多くを府外産や輸入に頼っているのが現状である。そこで私たちは、京都の大豆食文化の伝承と地産地消を目的として、京都静原産大豆の魅力を伝える取組を行う。



## 活動内容

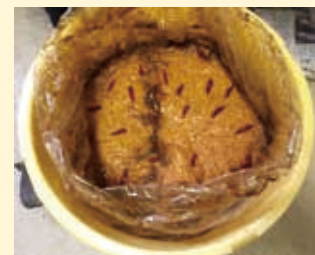
静原の農家からお借りした自分たちの畑で大豆（品種：オオツル）栽培、静原地域全体への大豆栽培の働きかけ、商品開発・販売、大豆をテーマとしたイベントを実施した。イベントの際には、JAと協力し、大豆の発酵力に着想して開発した大豆発酵パンや、昨年度に製造し寝かせておいた手作りの味噌を使った豚汁を振る舞った。年度末にはこれらの取組や大豆に関する情報を載せた冊子、映像資料を製作する予定である。



## 成果

## 〈学生にとって〉

昨年度の経験を活かし、大豆の栽培方法の改良や写真集等の成果物作成に取り組む中で、事業を継続することの大切さを学ぶことが出来た。そして静原を中心として、少しずつこの取組を広めることが出来ていると感じている。



## 〈地域にとって〉

大豆に関するイベントを行うことによって、地域内外からの参加者や留学生を呼び込むことができ、静原という地域と併せて大豆のことを知ってもらえた。また、事業に関わる学生に大豆を商品化することに興味を持ってもらうことが出来た。

## 学生・地域の声

毎週農作業をすることは大変だけど、大切に育てた作物が育つ喜びは大学では味わえないものです。

農業を通して若い学生さんと交流することで元気がもらえ、そして農業や文化などを教えることに面白さを感じた。



## 実施団体の紹介

ふかくさ町家シネマ  
(ふしみ・ふかくさコミュニティアーカイブプロジェクト)

昭和時代の生活文化を映した8ミリフィルム映像や写真を集め、ゲストと地域の方々を招き上映会を行う。また、上映会でのディスカッションの内容を丁寧に書き起こし、冊子を作成する。



## 伏見区社会福祉協議会

毎月第二土曜日に深草小学校で開催している「ふれあいサロン」にお邪魔して、出張町家シネマを開催。

## 伏見チンチン電車の会

明治28(1895)年2月1日、京都市東洞院塩小路～伏見町油掛間に、日本初の電気鉄道の営業路線が開通。その功績を讃え、広く周知することを目的として設立された団体。

## 事業について

## 目的

深草地域の家庭に眠っている昔の8ミリフィルム映像をDVDにデジタル化し保存することで、当時の庶民の暮らしや今は残っていない地域の建築物・風景などの記録を遺し、継承することを目的としている。また、上映会で地域住民の思い出を伺うことにより、撮影された時代をより深く知る。

## 活動内容

深草にある町家キャンパスを拠点として、収集した古い映像の上映会を行っている。また、映像だけでなく、古い時代の写真資料に写されている場所に向いて撮影し、当時と今の状況を比較する上映会を行った。その際、住民の方々に変化した場所のお話を伺い、学生の知らない時代話を聞くことができた。また、成果物として、上映会での会話を書き起こし、冊子として発行予定。

## 成果

## 〈学生にとって〉

私たち学生は平成生まれなので、住民の方々の記憶や思い出は新しい発見ばかりであった。また、春には改元され、新しい元号となる。昭和は新元号から二つ前の時代になるので、歴史を継承する事業には大いにやりがいを感じた。

## 〈地域にとって〉

8ミリフィルムは保管が難しく、映像を見る映写機を持っている方も少ないため、フィルムの中身を確認せず廃棄されることが多い。この活動を通して家庭に眠っている貴重な資源を地域の財産にすることができた。



## 学 生 ・ 地 域 の 声

懐かしい映像や写真を見られてよかった。  
また、上映会をしてほしいです。

8ミリフィルムの映像を初めて見られた。  
捨てずに保管しておいてよかった。

## 実施団体の紹介

龍谷大学・東高瀬川の環境保護  
と地蔵盆プロジェクトチーム

社会福祉を学ぶ短期大学部1・2年生で構成。地蔵盆の活性化だけでなく、会場となる河川周辺の環境保護にも取り組んでいる。活動の継続性から、今年度は新たに、防災マップ、防災グッズづくりに協力した。



川久保町自治会  
砂川学区自治連合会

伏見区砂川学区所属の町内会、地域行事等の主催。

砂川学区東高瀬川を美しくする会  
東高瀬川流域の地域住民で構成する河  
川に関する活動団体。

京都市立京都工学院高等学校  
プロジェクト工学科

河川環境整備のため地域住民と共に環境改善活動を数年前から継続してきた。

事業について

## 目的

**目的** 伝統行事の活性化と環境保護によるまちづくりを目指している。町内を流れる東高瀬川は、不法投棄の目立つ河川であった。その河川敷が会場となる地蔵盆は、少子高齢化のため参加者が減少して短い時間で終了していた。河川環境改善と伝統行事を次世代に引き継ぐため、平成 26 年から、学生が大人・高齢者世代と子ども世代の橋渡し役となり、行事の企画・運営に関わり地域の活性化を図っている。こうした地域との関わりから、新たに、防災に関する活動にも取り組む。



活動  
内容

**活動内容** 東高瀬川上流へフィールドワーク(5/18)／東高瀬川の「ホタルのタベ」に参加(6/8)／青竹を材料に地域住民・高校生・大学生が60個の竹灯籠を共同製作(7/3)／地蔵盆「折紙教室」のため京都教育大研究室で折り紙講習(7/19)／地域住民・高校生・大学生が会場の草刈り・清掃活動(8/10)／地蔵盆開催(8/18・19)／防災避難時の一時集合場所の確認と防災ワークショップ(10/2)／東高瀬川河川整備のワークショップ(11/10)／大学・地域連携サミットポスターセッション参加(12/2)／防災マップと防災グッズ製作のワークショップ(12/2)／



## 成果

## 〈学生にとって〉

地蔵盆行事だけに参加するのではなく、河川の上流を歩き手づくり竹灯笼の共同製作など準備段階から関わりを持ち、企画が現実になる達成感を持てた。昨年の災害発生をきっかけに、町内で防災活動の重要性への認識が高まり、協働の取組に発展したので、自分たちにとっても防災は大切で身近な取組だと実感した。

## 〈地域にとって〉

**地** 蔵盆の竹灯籠はこの地域にすっかり定着した。かつては不法投棄が目立つ河川だったが、ホタルを放生し高校生・大学生の取組で河川環境が大きく変化した。子どもと大人・高齢者の橋渡し役となった若者の行動力に期待が寄せられている。



学 生 ・ 地 域 の

地域住民にまとまりがあり、何ごとにもすごく熱心だった。将来、このような地域で子育てをしながら伝統行事を大切にしていって穏やかに暮らしたい。

毎年新しいプログラムがあり、地蔵盆を楽しみにしている。高校生や大学生が参加する町内行事はとても盛り上がるので、地域に住む参加者が増加してきた。



## 実施団体の紹介

京都橘大学  
現代ビジネス学会  
まちづくり研究会

まちづくりの成功事例などを研究し、全国各地を訪問している。その研究を通して、山科区や伏見区醍醐地域でイベント企画・運営を行い、地域の活性化を手伝っている。



## 醍醐中山団地町内連合会

京都市伏見区醍醐中山団地の自治会活動の企画・運営を行っている。清水焼ワークショップの会場設営、掃除・陶灯路の運営などを実施した。

## 京都橘大学陶灯路実行委員会

7月の七夕陶灯路、10月のやましな駅前陶灯路を企画・運営している団体。醍醐中山団地陶灯路の企画・準備・運営を行った。

## 清水焼団地協同組合

山科区で清水焼を生産・販売している協同組合。今回の事業では清水焼ワークショップの陶器づくりの素材提供・指導などを行った。

## 事業について

## 目的

醍醐中山団地では高齢者と子育て世代との交流が減少している。清水焼ワークショップは、活動に参加する学生とともに、清水焼団地協同組合のご指導のもと、子どもも大人も清水焼に触れるだけでなく、清水焼の歴史・技術を学ぶ機会を作る。また清水焼ワークショップで高齢者と子供たちが一緒になってアクセサリーを作ることにより、世代間交流の促進につなげる。醍醐中山団地陶灯路を通して、醍醐地域で清水焼のPRを行う。

## 活動内容

団地の居住者の交流促進と、地域の特産物である清水焼PRのために、主に3つのイベントを開催した。『清水焼ワークショップ』は、清水焼をもっと身近に感じてもらうために、清水焼の陶器を素材としたアクセサリー作りを企画した。『中山団地大掃除大作戦』は今年初の取組で、団地内やその周辺をきれいにするということを目標とし、住民の方々と協力して実施した。『醍醐中山団地陶灯路』は、たくさんの清水焼の陶器の容器の中に入れてろうそくを入れて団地内を美しく灯すイベントで、住民もボランティアとして協力いただいた。

## 成果

## 〈学生にとって〉

高齢者の方々と子どもたちがイベントに参加してもらう機会はあっても、1年前は交流を持てる環境をつくることができなかった。そこで、学生が積極的に参加者に話しかけるなど、参加者をサポートすることで、子どもたちが高齢者の方々にアクセサリーの作り方を教えるといった交流のきっかけとなる環境づくりができた。このイベントを通して高齢者の方々と子どもたちが笑顔になり、楽しんでいる様子を見てやりがいを感じた。

## 〈地域にとって〉

取組を始めて2年になるが、1年目に比べて参加する住民の増加がみられた。多くの住民が興味を示しており、団地や周辺住民の交流機会の拡大につながった。



## 学生・地域の声

3つのイベントに地域の方々と関わることで、住民コミュニティの形成を強化し、地域が活性化する大切さを学んだ。このことを後輩にも伝えて継続していきたい。

地域住民がイベントを通して一致団結したように感じた。またこれからも続けて地域の活性化に貢献してほしい。

## 実施団体の紹介

## わくわく研究室

佛教大学教育学部平田ゼミの3・4回生の学生21名が企画、運営を行う団体。月に一度、上京区の北野商店街近くにある仁和会館で小学生を対象に科学教室を行っている。



## 北野商店街

中立売通から一条通を東西に400メートルにわたって約100店舗が軒を連ねる商店街。商店街の中には地域の方の居場所を作るための施設も存在し、交流の場として様々なイベントが開かれている。

## 事業について

## 目的

子どもたちの理科離れがささやかれる中、教員養成課程の学生と小学生が理科実験を通してふれあうことのできる場を持つことは貴重であると考えた。また、上京区では高齢者から子どもまで、世代を超えたふれあいの機会が少なくなったという声があった。これにより、地域のみんなが集う場所としてコミュニティづくりが必要だと学生の視点から考え、地域と協働でまちづくりを行うことを目的としている。



## 活動内容

月に一度、仁和会館で科学教室を定期的に行う。保護者の方にも見学してもらい、新たなコミュニティが生まれるように活動した。また、小学生を対象とした科学教室ではあるが、商店街の振興を目的に、大人も商店街に引きつけるための工夫として、北野商店街の夏祭りに参加する等の活動を行うことで、多くの世代が集う地域の居場所として根付かせるための足掛かりを作った。



## 成果

## 〈学生にとって〉

科学教室を月に1度行うことで子どもとふれあう機会が非常に多くなった。それにより、保護者の方などから子どもたちの生活の現状の話を聞くことができ、地域の中に「子どもの居場所」をつくることの重要性を知ることができた。

## 〈地域にとって〉

商店街で科学教室を行うことは、定期的に子どもの声を聴く機会になり、地域活性化の一端を担うことにつながっている。また、高齢者と子どものつながりや保護者と高齢者のつながりをつくることができ、今までになかった世代間の交流を生み出すことができています。

## 学生・地域の声

毎回来てくれる子どもの「最近学校の理科も楽しくなってきた」という声を聴き、とてもやりがいを感じた。

放課後の居場所づくりに加えて理科の実験もでき、大変貴重な体験を子どもにさせることができてとてもうれしい。



## Halloween in 西院 実行委員会

地域交流を目的にハロウィンイベントを開催。学生と住民と企業の三者が協力し、親しみ・安心・つながるまちづくりを目指す団体。

### 実施団体の紹介



西院第一自治連合会  
西院第二自治連合会  
山ノ内自治連合会  
向上社児童館 山ノ内児童館  
西院小学校 山ノ内小学校  
京都ファミリー 右京区役所  
京都学園大学「京學堂」  
京福電気鉄道株式会社  
ひょっとこ踊りの会  
京都外国語大学  
学生フラメンコ連盟

### 事業について

#### 目的

ハロウィンイベントを通して、「地域の住民、商店、大学生の交流を促進し、互いのつながりを強める。地域の住民と大学生に、地域への愛着をより深めてもらう。地域の住民に京都外国語大学を知っていただき、親しんでもらう。共働き世帯の子どもたちをはじめ、地域の子どもの居場所をより豊かなものにする。」などを目的としている。

#### 活動内容

学生がもっと地域に関わって欲しい、世代間交流が減少している状況をなんとかしたい、といった地域のニーズに合わせたハロウィンイベントを開催。嵐電装飾、山ノ内児童館・向上社児童館ワークショップ、宕陰ハロウィン祭参加、ランタン作りワークショップ、西院トリックオアトリート、Halloween Parade in 西院、ライド＆ウォークの計8イベントを開催し、延べ300人強の地域住民が参加・交流した。イベントを通じて「安心・親しみ・つながる」地域づくりに貢献した。

#### 成果

#### 〈学生にとって〉

地域に関わっていく第一歩として、このイベントは大きな役割を果たしている。イベントを企画から実行まで学生主体で行うことで、学生に計画力やコミュニケーション能力など様々なスキルが身に付いた。

#### 〈地域にとって〉

家族で楽しめるイベントが増え、地域の世代間交流が促進されている。大学生が地域に入ってきて、様々な団体との関わりを増やすことで、地域内の交流が活性化されている。



挨拶回りでは、「今年も頑張ってるね！応援してるよ！」という言葉を数店舗からいただき嬉しかった。

ワークショップやパレードは楽しかった！  
ぜひ来年もやりたいです！

## 実施団体の紹介

さとまちフェスティバル  
実行委員会

京北地域で夏祭りなどのイベントの企画・運営を行う、地元出身の大学生や社会人を中心とした団体である。地元の高校生が大学生、社会人となってからも継続して活動に参加している。

京北さとまち交流カフェ  
「恋咲楽」

空き家を活用した地域の人と街の人の交流スペース。活動場所の提供など様々な支援をいただいている。

## 北桑田高等学校

京北地域にある高校。高校生が当団体に関わってくれている。

## 弓削自治会

京北地域の弓削地区の自治会。

## 事業について

## 目的

京北地域では少子高齢化や若者の流出が課題となっている。地域住民の交流場所や京北の魅力を知らせきっかけとなるために、地元出身の学生をはじめとする京北出身の若者が中心となり、さと（京北）の人も、まち（街中）の人も、若者からお年寄りの方まで楽しめる交流の場を創出し、地域を活気づけることが目的である。

活動  
内容

今年で3年目となる夏祭りのさとまちフェスティバルでは、北桑田高校の生徒に運営に関わっていただき、竹の流しそうめんや地元野菜を使ったクレープ、灯籠作りワークショップ、花火大会などを行った。12月には、活動するにあたってお世話になった地域の方々を招待し、一緒にお菓子を作って食べるなどの交流を楽しみおクリスマス会を開催した。

## 成果

## 〈学生にとって〉

夏祭りやクリスマス会を通して、京北地域に関わる様々な人に、京北ならではの取組の楽しさや地域の魅力をもっと知ってもらいたいと感じた。また、京北の地元住民の方々に喜んでもらえているとの声を聞き、自分たちの活動が地域の魅力を内外に伝える一助となっているという実感を得ることができた。

## 〈地域にとって〉

学生などの若者がイベントを開催したり、継続して活動を行うことで、地域住民と交流でき、地域での取組を活気づけることにつながった。また、高校生に活動に関わってもらうことで、京北地域の魅力を知ってもらうきっかけとなった。



## 学 生 ・ 地 域 の 声

夏祭りは、毎年継続してくれている事が楽しみになっている。準備などで地域に色んな人が来ていることも、にぎやかで嬉しい。

若い人が地域で活動してくれていることで活気づき、嬉しく思う。



## 実施団体の紹介

## カモシネマ 14 実行委員会

鴨川で清掃活動と野外映画上映イベント「カモシネマ」を企画・運営する団体である。イベントを通じて京都の歴史ある景観に重要な役割を果たす鴨川の魅力を伝え、鴨川の自然環境を守るきっかけをつくる活動を16年間行っている。地域住民や若者に鴨川の長期的な美化・保全意識をもってもらうことを目的とする。



京都府健康福祉部薬務課  
鴨川を美しくする会  
鴨川流域ネットワーク  
京都土木事務所  
北青少年センター  
南青少年センター  
立命館大学広告研究会  
京都国際学生映画祭  
龍谷大学博物館実習室  
嵯峨野高校放送部

## 事業について

## 目的

「鴨川の景観を後世に残す」ことを信念とした「鴨川を美しくする会」と協力し、私たちが運営するイベントを通じて、京都の歴史ある景観にとって重要な自然の一部である鴨川の魅力を伝え、地域住民や若者に鴨川の長期的な美化・環境保全意識を持ってもらうことを目的とする。

## 活動内容

学生が自ら鴨川納涼・茶店等で清掃スタッフとして活動することにより、鴨川に対しての理解を深めるとともに、長期的な美化・環境保全意識の定着を図るために、イベント「カモシネマ 14」を鴨川河川敷にて実施した。日中は鴨川の清掃活動と鴨川の自然を感じられるミニゲーム、日没後はミスキャンパストークショー、京都国際学生映画祭最優秀作品の上映、野外映画上映会（今年度は『セトウツミ』を上映）を行った。また、広報活動としてフライヤー・ポスターの制作・配布、区役所や地下鉄への配架、SNSの運用も行った。

## 成果

## 〈学生にとって〉

地域の方々に鴨川で野外でイベントを行うにあたっての留意点などを教えていただくことに加え、取組全体を通して自分たち自身の鴨川に対する環境保全意識が高まった。

## 〈地域にとって〉

イベント来場者数が過去最高を記録。特に清掃活動の参加者が急増したことから、鴨川の環境保全意識が高まった。また、イベント実施地域であった京阪電車出町柳駅周辺の振興にもつながった。

若者だけでなく保護者世代も清掃活動やイベントに参加することによって、世代を超えた人のつながりが形成されている。



## 学生・地域の声

鴨川河川敷の清掃活動の参加者より「今後も協力したい」とのご意見をいただいた。

地域住民・若者に鴨川の魅力を伝えるとともに、長期的な美化保全意識の形成に貢献できた。

## 実施団体の紹介

## 学生団体からふる

「食卓」という場を通じて、こどもたちや地域の方々、学生が気軽に対話できる「みんなの居場所」づくりや、学生の参加しやすい地域コミュニティの形成を目指す、京都大学の学生を中心とした学生団体である。

社会福祉法人 健光園  
北白川児童館

こども食堂の開催場所提供や当日の運営補助等の協力を行っている。

公益財団法人  
京都 SKY センター  
アート SKY 塾

食事の前の時間に、おとなもこどもも楽しむことのできるアート教室を企画。

## 事業について

## 目的

多様な人々が気軽に対話できる居場所を作ることを目的としている。また、学生のまちである京都に学生が運営するこども食堂を作ることで、学生が地域に参画するきっかけをつくる。さらに、既存の地域コミュニティに学生を取り込むことでさらなる活性化を図る。

## 活動内容

月1回のペースで8回のこども食堂を開催した。こども食堂では食事の提供に加え、京都 SKY センターの皆様によるアート教室、学生がこどもに勉強を教える「あそびタイム」を開催した。こどもたちとより仲良くなることを目指し、名札や整理券、ポスターなどを作成し、会話のきっかけをつくった。団体以外の学生への広報も行い、こども食堂に参加してもらった。

## 成果

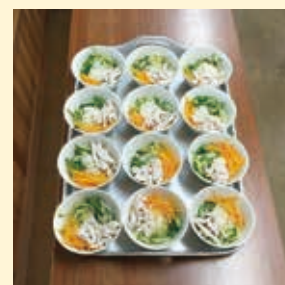
## 〈学生にとって〉

各メンバーが自分はどういうことがしたいのか、こども食堂では何を求められているのかといったことを考えるきっかけになった。児童館、京都 SKY センター、保護者など様々な人と出会い、経験を深めることができた。



## 〈地域にとって〉

2016年から継続して取り組んだ結果、地域の方々が食事の準備を手伝ってくださったり、学生とこどもが互いの名前を覚えるなど関係の深まりが見られる。こどもだけではなく、多くの人の居場所となっている。



## 学生・地域の声

こどもが工作をして目を輝かせているのを見て、大人も嬉しくなるような工作をしていきたいと思いました。

いつもおいしいごはんをありがとうございます。





## 実施団体の紹介

## 都ライト実行委員会

上京区エリアを拠点に、町家の保全活動を目的としてまちと町家のライトアップ及び併設イベントを行う団体。今年度は主に京都市内の大学から20名ほどのメンバーが集まり、町家の保全とともにまちの文化、特色、魅力を学び、伝えている。



## 大黒町町内会

都ライト開催地域の1つである浄福寺通大黒町の町内会。都ライト開催当初からご協力いただいている。

## 上七軒匠会

都ライト開催地域の1つである上七軒に集結しているお店の組合。これまで個々のお店と関わりはあったが、今年度は組織としてご協力いただく形となった。

## 事業について

## 目的

― 昨年行った開催地域内でのアンケートの結果、イベントに協力していただく地域住民の新規開拓、地域の魅力を全面的に打ち出す企画に取り組んでほしいという意見がみられた。その声から、着物企画では地域住民と来場者とのつながりを増やし、地域ツアーでは視覚だけでは感じられないまちの良さを感じていただくことを目的とした。

## 活動内容

「着物でもっと楽しむ都ライト」では、地域の方から使っていない着物を借り、参加者の方に着ていただいた。11月10日(土)、11日(日)の二日間開催し、事前予約制で料金は1500円とした。両日合わせて21人の着付けをし、日本人だけでなく留学生の方からも好評だった。

同日開催の「都ライト地域ツアー」では、地域住民や実行委員が地元の魅力や歴史について、歩きながらツアー形式で紹介した。参加費は無料。両日ともに15人前後の参加者が集まった。

## 成果

## 〈学生にとって〉

地域住民から着物をお借りしたり、共にツアーの内容を考えたりすることで、地域の方々と深く関わる機会が増えた。また、上京区の魅力を来場者に伝え、地域と来場者の架け橋になれたことに喜びを感じた。

## 〈地域にとって〉

着物企画や地域ツアーを通して、普段は気付かない地域の魅力を来場者に知ってもらえたことで、地域の活性化につながるきっかけとなった。また、地域の方が普段あまり関わるることのない学生、地域外からの来場者、留学生との交流も新たに生まれた。

## 学生・地域の声

地域の方や他団体を巻き込んでイベントを行う難しさや、やりがいを感じた。地域の方だけでなく学生の間でもつながりが増えた。

若い人と交流ができてよかった。路地裏や普段行かないお店を知るきっかけとなり、店内は人で賑わっていた事がよかった。



## 実施団体の紹介

## そらたねプロジェクト

京都市北区新大宮商店街を拠点にそらたね祭を主軸としたイベント企画を学生主体で行うことによって、商店街地域に若い世代を呼び込み、若年層から年配層までの幅広い世代間の交流とコミュニティ形成を目的としている。



## 唯明寺

そらたね祭の会場である唯明寺は、亀田晃巖住職の祖父であり、仏教の教えを広めた「節談説教」の名説教師・亀田千巖氏を慕う同行が「聴聞の拠点」として建立。語り口調に抑揚をつけ、歌や踊りも交えた布教方法は民衆から絶大な支持を得たことで知られている。そらたね祭の中心会場としてご協力いただいている。

## 事業について

## 目的

新大宮商店街は、多数の大学の学生が周辺に多く在住している一方、商店街店舗を利用する学生は少ないため、地域と若年層を結びつけ、全世代が関わり合える地域コミュニティを形成するニーズがある。また、商店街の店舗同士の結びつきが弱まっているため、再び結びつきを強めることも課題となっている。行事やイベントに参加、あるいは学生が主体的に企画を行うことで地域コミュニティを拡大し、商店街内の結びつきを強めることを目的として活動をしている。



## 活動内容

## ①新大宮商店街夏祭りでの学生ボランティア活動

そらたね祭を実施する前段階として、実際に地域のイベントにスタッフがボランティアとして携わった。また学生スタッフの斡旋も行った。

## ②そらたね祭の企画・運営

学生がアイデアを出し合い、地域と連携したステージ演出や食品屋台ブース、商店街店舗協力型ワークショップを企画・運営した。

## ③情報誌の制作

新大宮商店街理事会のみなさんと協力し、商店街の店舗同士の結びつきを強めることを目的とした情報誌を制作・配布した。

## 成果

## 〈学生にとって〉

新たな人々に出会い、地域の魅力を知ることができた。また、地域住民のニーズや課題について深く考えることにより、情報誌などといった新たな活動を始めることができた。

## 〈地域にとって〉

少子化によって夏祭りなどの人手不足が問題となっていたが、学生の若い力によって、夏祭りを継続して開催することができた。また、学生が中心となって作成した情報誌のおかげで、今まで知ることができなかった各店舗の思いを知ることができた。

## 学生・地域の声

様々な背景を持った方々と関わることで、多様な価値観を育むことができたと思う。もっと地域との関わりを深めたい。

学生が商店街に入ることによって、商店街の人手不足が解消されている。また関わる学生が増えてきていると感じている。

## 実施団体の紹介

### 佛教大学 京都・高雄活性化 プロジェクト

佛教大学社会連携センタープロジェクトの1つとして、高雄保勝会をはじめとした地域団体と連携しながら、高雄地域の活性化のための企画を行っている。活動メンバーは現在18名。



### 高雄保勝会

高雄地域の観光地としての魅力向上を目指す団体。企画内容の打合せおよび運営協力、活動場所の提供をしていただいている。

### 高雄自治連合会

活動全般へ参加・協力いただき、必要物資の提供、地域や他団体との調整を行っていただいている。

## 事業について

## 目的

高雄地域では観光客が減少し、集客が見込める紅葉シーズンにおいても観光客が減少傾向にある。若い女性層や外国人をターゲットに年間を通して観光客を呼び込みたいという地域の要望のもと、大学生ならではの目線で企画を立案・実施することにより、高雄地域を活性化させることを目的としている。今年度は特に広報活動に力を入れて活動を行った。



## 活動内容

「高雄もみじちゃん祭り」でマスコットキャラクター高雄もみじちゃんのパネル16体のお披露目を行い、台風被害を受けた地域の復興をPRした。作成したキャラクターは、高雄地域の各店舗で利用していただいている。京都・高雄フォトコンテストには100件以上の応募があり、写真展示を行って、広く高雄の魅力を発信した。秋には、北山杉のコースター作り、高雄もみじちゃんのプラ板と缶バッジ製作のクラフト体験、写真展を行い、多くの観光客に楽しんでいただいた。また、活動内容はInstagramで情報発信を行った。



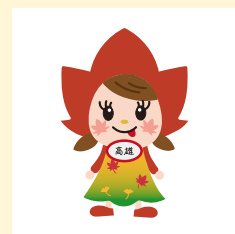
## 成果

#### 〈学生にとって〉

地域の方の意見を基に企画の提案から実現まで携わることができ、計画から実行の過程を経験したことで大きな達成感を得ることができ、地域の方や学生同士の親交を深めることができた。また、活動を通して地域活性化の難しさを実感した。

#### 〈地域にとって〉

マスコットキャラクターという新たな魅力が地域に誕生し、広がりを見せている。また、京都・高雄フォトコンテストの活動を通して京都市交通局等の機関と地域につながりが生まれ、新しい形の地域活性化のきっかけをつくることができた。



高雄もみじちゃん

#### 学 生 ・ 地 域 の 声

地域の方々と協力し、台風被害からの復興に向けて微力ながらお手伝いできたのではないかと思います。

イベントの企画立案・準備を、地域の方々とふれあいながら進めることで、達成感を味わう事ができた。



## 実施団体の紹介

京都精華大学  
京北宇津宝さがし会

右京区京北宇津地域の自然、文化、歴史、人、街並み等の全てを「宝」と捉え、地域団体との協働によるイベント企画・実施、資料の整理、課題の抽出などを通して、宝の再発見と醸成、発信を行う学生団体である。



## 宇津自治会

宇津地域の行事・日常生活・防災・情報共有等の要となる組織。

**いっぷく家宇津移住促進チーム**  
移住促進や地域活性化に向けた活動を幅広く展開している。

**親子にっこり製作所**

京北の子育てサークル。多様なイベントを企画運営している。

## 事業について

## 目的

京北宇津地域は豊かな自然と歴史・文化に恵まれながらも、過疎化が急速に進んでいる。地域の良さや希少性を学生の知見や若い感性で捉え直し、新しい魅力を再構築することが事業の目的である。これまでの活動実績によって、地域の中でどのような活動であれば学生が参画できるのかといった共通認識が生まれ、次の活動に向けた提案や要望が地域からも上がるようになった。

## 活動内容

子どもフェスタ(8/4,5)では、恒例の鮎つかみ、筏遊びに加え、写真教室、物づくりワークショップを行った。うどんディスコ(8/6)では会場装飾や選曲を担当した。宇津夏祭り納涼の集い(8/15)では、会場設営や屋台出店の他、大学のフラメンコ同好会が舞台上でパフォーマンスを行った。写真教室(11/18)と、同日取り組んだ児童公園のペンキ塗り直しは地域からの要望に応えたものである。学園祭(11/2,3)には自分たちの活動を紹介するブースを出店し、活動をアピールした。

## 成果

## 〈学生にとって〉

子どもたちと徐々に打ち解け、帰る頃には「また会おうね!」と言ってくれる。何かを一緒にやり遂げることで仲を深めることができ、また会う時のためにできることを考えたいという気持ちがさらに強くなった。

## 〈地域にとって〉

限界集落が多い宇津で、自治会、地域活性化組織「いっぷく家宇津」及び子育て団体と連携、協働しての活動や学生目線での提案は頼もしく、地域にとって無くてはならない存在となっている。



## 学生・地域の声

地域の人たちと関わることで活動に参加するモチベーションが高まる。毎回色々な発見がある。地域の方からの喜びの声が一番の活力になる。

「宝探し会」のおかげで活気が出る。若者目線での提案・アドバイスは新鮮、斬新でいつも刺激を受け、高く評価している。

## 実施団体の紹介

はうすまいる

龍谷大学政策学部 Ryu-sei GAP「はうすまいる」は、団地住民同士のつながりを取りもどし、新たなつながりを生むことを目標に活動している。団地内でイベントを実施したり、団地の現状や住民の意見を聞ける場づくりを通して、住民同士が「ほっとけない」と思える関係づくりを目指している。



南浜学区社会福祉協議会

南浜学区で社会福祉活動を展開している。はうすまいるの活動においては、協議会が培ってきた住民の方との信頼関係やネットワークを活かして、桃陵シニアの暮らしを考える会の共同開催、桃陵 HANDs などのイベントの宣伝活動などに尽力いただいている。

事業について

## 目的

**目的** 桃陵団地では、住民の高齢化や高齢化による地域行事の減少など、住民間のつながりの希薄化が見受けられる。このことから、我々は住民同士が交流でき、昔の友人と久しぶりに会うことのできる場、新しいつながりが生まれる場を提供することで、住民間に「ほっとけない関係」を構築することを目的として活動している。



活動  
内容

**活動内容** 「桃陵シニアの暮らしを考える会」は、私たちの活動に関わってくださる住民の方と団地内のコミュニティづくりについて深く議論する場として実施した。「桃陵 HANDs」は、住民同士のつながりを取りもどすため、カフェスペースや野菜市などを実施し、多くの住民の参加を得られるよう試みている。また、高齢者と子育て世代などの世代間交流を促すため、子供ブースも設けた。また、全ての住民の方々に活動内容の紹介や暮らしの情報、住民同士のコミュニケーションのきっかけとなるような情報を掲載した「団地だより」を毎月1回発行している。



## 成果

## 〈学生にとって〉

実際に地域に出ることや、住民一人一人の思いに耳を傾けることでリアルな地域の課題を知り、その解決に向けて自分たちで企画・実践する力を養うことができた。また、自治会や住民、公共団体、学生といった様々な立場から地域を捉える多角的な視点が養われた。



## 〈地域にとって〉

新たなコミュニティが生まれた事で、住民同士の交流が復活したり、世代を超えた新たなつながりが生まれた。地域のお祭りや団地内の行事に学生が参加することで、団地が活気づき、地域行事の存続にも貢献できた。

学 生 ・ 地 域 の 声

「皆が頑張ってくれているから、私たちも協力するわ。」とおぜんざいやお味噌汁の炊き出しを提案してくれた。

最近見掛けなかった人と桃陵 HANDs で  
久し振りに会えて話が弾みました。楽  
しかったよ、また来ます。



## 実施団体の紹介

## 淀本町商店街ふれあいライブラリープロジェクト

伏見区淀地域にある淀本町商店街の活気を取り戻す活動を行っている。淀地域では、図書館に対する住民のニーズがあることが分かったため、空き店舗を活用した図書館を月に1度開き、店主さんや地域団体と連携したイベントを実施している。



## 淀本町商店街振興組合

空き店舗の賃借交渉、イベントの企画や協力をしていただいている。

## 淀みず車の会

淀の歴史を紙芝居にし、読み聞かせを行っている地域団体。イベント協力や情報提供をしていただいている。

## 淀児童館・明新小学校・納所小学校

淀本町商店街ふれあいライブラリーの広報協力をしていただいている。

## 事業について

## 目的

京阪淀駅が高架化され、駅のメインとなる出入口の場所が変わった影響で、淀本町商店街の人通りが減少していた。そのため、すべての店舗が何らかの形でかがやくためのきっかけづくりを行うことを目的とした。また、店主さんと地域の人をつなげ、地域から愛される商店街を創ることで人通りを増加させ、商店街のかつての賑わいをとりもどそうと考えた。

## 活動内容

月に1度、商店街の空き店舗を活用して、図書館を開設しイベントを行った。8月、9月はしおりづくり、10月は競馬の開催に合わせた商店街内でのクイズラリー、11月にはビブリオバトルや紙芝居、12月にはクリスマスツリーを作り、店舗に飾り付けをした。地域でニーズのある図書館を開設することで商店街に来るきっかけをつくり、イベントを通して淀地域についてもっと知ってもらったりや店主さんと地域住民のつながりを生み出す機会とした。

## 成果

## 〈学生にとって〉

実施回数を重ねるごとに足を運んでくれる人が増え、「これまで図書館がなかったから嬉しい」という声や新たなニーズについて聞き出すことができた。また店主さんをはじめ、地域の方と図書館開催時以外でも挨拶を交わすなどの関係を構築できた。

## 〈地域にとって〉

準備の手伝いや当日に差し入れをしてくださったり、協力してくださる店主さんや地域の方が出てきた。また、図書館の認知度が向上していくにつれ、来てくださる人も増え、演奏会や紙芝居をしたいという地域団体の方もおり、イベントが当初より賑やかなものになっている。



## 学生・地域の声

最初は不安もありましたが、メンバーみんな協力して上手く活動してくれました。来年度からも楽しみにしています。

学生と子どもたちが商店街に来ると、商店街が明るくなって嬉しい。どんなイベントをしてくれるのか、毎月の楽しみにしています。

## 京都文教大学バスツアーズ

2013 年から、向島ニュータウンでひとり暮らしの「引きこもりがちな高齢者」と学生が、京都文教大学のスクールバスを利用した日帰りバスツアーを実施し、今年度で 20 回以上開催している。2016 年から学まちコラボ事業に採択されている。

## 実施団体の紹介



向島二ノ丸学区社協  
向島二ノ丸民生児童委員  
京都文教マイタウン向島ランチクラブ  
京都文教マイタウン向島運営会議「寄合い」  
向島駅前まちづくり協議会

向島ニュータウンは、ひとり暮らしの高齢者に対する地域ぐるみの生活支援が課題となっており、学区社協や民生委員の方の役割が大きくなっている。

## 事業について

## 目的

ひとり暮らしの「引きこもりがちな高齢者」が外出できるように、京都文教マイタウン向島では、月 1 回のランチクラブ、歌の集いや囲碁クラブなどが実施されている。これらの活動に加え、健康の不安や経済面から旅行を諦めていた方を対象に、学生がサポートする日帰りバスツアーを実施して旅行の楽しさを提供し、元気になってもらうことを目的としている。



## 活動内容

民生委員の方と相談しながら旅行先と内容、実施日などを検討し、バスツアーを計 4 回（7 月京は遠ても十八里、鯖街道／10 月近江八幡、櫛野寺、甲賀流忍者屋敷／11 月尾張寂光院と犬山城下町、明治村／12 月チキンラーメンミュージアムと神戸南京町、ルミナリエ）実施した。2 月には安土城郭博物館と長浜盆梅展、長浜を実施予定。また、10 月には「向島まつり」へ参加し「京都文教大学バスツアーズ写真展」を開催。約 100 名の来場を得た。



## 成果

## 〈学生にとって〉

ツアーの企画から実施までを体験し、地域に貢献できたと感じている。「向島まつり」へ参加し、過去 20 回のバスツアーの様子を展示した「京都文教大学バスツアーズ写真展」では、来場者と直接交流できた。

## 〈地域にとって〉

日頃、家に引きこもりがちな高齢者同士の相互交流から友達ができ、旅行の後も話をするようになった。また、お化粧や洋服に気を使うようになり、生活に張り合いが生まれた。

## 学生・地域の声

日頃接することのない向島ニュータウンの高齢者の方とふれあい、向島駅や大学、ニュータウンのイベントで顔を合わせた時に話をするようになった。

お洒落に気を使い、学生とふれあって元気をもらった。明治村では子どもが小さかった頃を思い出した。



## 実施団体の紹介

KOKA ☆  
オレンジサポーターズ

高齢者・障がいがある方に対する「食」支援の現状を学び、食べる機能の維持の啓発など、学生にできる支援を行っている。さらに飲み込みやすい和菓子を紹介・提供する取組を実施し、開発にも参加している。



## 京滋摂食嚥下を考える会

多職種が連携して高齢者・障がい者の「食」支援を行っている。

## コスモス・ハート

右京区で地域活動の運営をサポートしている。

京都市右京区地域介護  
予防推進センター

地域の介護予防の拠点。

## 事業について

## 目的

高齢者・障がい者支援の専門職を目指す学生が、在学中から地域の「食」支援の現状や、関連する多様な職種・地域連携のあり方について学び、学生にできる支援とは何かを考え、実行することを目的としている。地域からは介護予防事業への協力要請があり、地域の高齢者と学生との異世代コミュニケーションの場として介護予防事業にも参加した。

活動  
内容

認知症カフェや介護予防自主グループに出向くとともに、大学では右京区の介護予防サポーターの方々と学生との協働で介護予防サロン（KOKA ☆オレンジサロン）を開催したりと、食べる機能維持の啓発および、「やわらか和菓子」提供イベントを行った。提供する和菓子の開発においては、学生も食材の特性を調べたり、和菓子のデザインや装飾を検討した。また、「食べる力を保つこと」の啓蒙パンフレット「食べることとわたし part 2」を作成した。



## 成果

## 〈学生にとって〉

食べる機能の維持や飲み込みやすい食物について、大学の授業で学んだ内容を実地で確認し、知識を活かした支援ができた。また、高齢者とのコミュニケーションで、より良い対応の仕方についての気づきが生まれた。

## 〈地域にとって〉

食べる機能維持の啓発及び「やわらか和菓子」提供イベントで、食べる機能の維持のための具体的な方法や和菓子の情報提供の機会になった。また、高齢者や障がいのある方と世代の違う学生とのコミュニケーションの場が生まれた。



## 学生・地域の声

イベントや大学のサロンに来てくださる方との交流は、普段の授業では学ぶことができない貴重な経験です。

大学から地域に歩み寄ってくれているようで、親しみを感じる。若い世代と関わる機会が出来ることは素晴らしい。

## 実施団体の紹介

## しーかす

左京区を中心に、子供からお年寄りまで幅広い世代の方々とともに創作活動を行っている。私たちの活動は現地に訪問して、芸術に親しんでもらえるようなアートワークショップを行うのが特徴である。

デイサービスセンター虹  
精華大前

京都精華大学から徒歩5分の位置にある通所介護施設。

## 市原野児童館

午前中は乳幼児、午後は小学生や中高生が利用する児童福祉施設。

## 事業について

## 目的

高齢の方の生きがいの創出や、学生が大学で培った能力を活かして、地域住民が創作活動に触れる場を提供することを目的としている。今後の人生の学びや生きがいの一つになってもらえることを期待して、活動している。

## 活動内容

デイサービスセンターではフラワーペーパーとモール、ペットボトルの花瓶で作ったお花、去年の干支である戌の置物を粘土で作った。児童館ではフィルムカメラで撮った写真でコラージュ制作、オリジナル水族館（紙で作った魚の展示や釣り遊び）、さらに折りたたみができる「my 人生ゲーム」作りも好評を得た。

毎回のワークショップでは、実施前に各施設との打ち合わせを行い、ニーズの聞き取りを行うとともに、実施後も施設へ訪問し、感想や反省点などを次回に活かすという流れを大切にしている。

## 成果

## 〈学生にとって〉

大学で学ぶだけでは経験できない幅広い世代の方との交流ができたことは、これから社会に出るにあたってよい経験になった。また、利用者や職員の方に分かりやすく伝えるためにはどうすればよいか、などを考えながらコミュニケーションを図る力を身に付けることができた。

## 〈地域にとって〉

デイサービスセンターでは学生との交流や、普段はあまり会話しない利用者さん同士のふれあいも見受けられた。児童館では参加した児童がお互いに切磋琢磨しながら創作活動を行っていた。



## 学生・地域の声

制作することを利用者さんがとても楽しみにしてくれている。その都度反省点は出てきたが、喜びの声を聴くたびに、やりがいを感じる。

一昨年度から築いてきた関係が、これからも継続していけることを望む。





平成29年度

## 最優秀事業団体

### 「龍谷大学・東高瀬川の環境保護と地蔵盆プロジェクトチーム」

#### 団体からのメッセージ



私たちは、龍谷大学短期大学部で社会福祉を学ぶ1、2回生です。この活動は地域のまちづくりに関心のある学生で構成されています。活動を通して伝統行事が継承され、地域住民にとって安心・安全のまちづくりを目指しています。単にイベントを実施するだけでなく、河川清掃や草刈りなど、皆さんが気持ちよく暮らす活動も大切だと考えています。

地域の方と一緒に活動していくうちに、私たち一人ひとりの名前を覚えて下さったのは嬉しかったです。子どもたちとも仲良くなり、別れるときに泣き出す子もいて私たちの方も胸がいっぱいになりました。

2017年の活動では、自治会長さんから、この活動が、地域住民の絆づくりに貢献しているということで「感謝状」を戴きました。そして、「学まちコラボ事業」でも「最優秀賞」を戴くことができ、とてもうれしく感激しました。

昨年の大阪北部地震や西日本豪雨をきっかけに、自治会では「防災マップづくり」に取り組んでいます。防災活動には、私たちとともに、京都工学院高等学校プロジェクト工学科の高校生も協力し、災害時の一時集合場所や消火栓の確認をしました。

地域コミュニティを大切にする活動は、災害時やあらゆる場面において重要であり、将来の自分たちにとっても大切な活動だと学びました。





乾 亨 選考委員長  
(立命館大学産業社会学部教授)

## 乾 選考委員長 からのメッセージ



「学まちコラボ」は、大学生の学びを支援する京都市と大学コンソーシアム京都の事業ですから、支援の大きな目的は「学生さんの学び」「学生さんの成長」です。ここが、他の「まちづくり」支援事業とはひと味違う、本事業の最大のウリです。

「学まちコラボ」事業は、学生さんが「地域の方と一緒に、地域のために活動する」なかでの学びと成長を重視しています。地域を知り、地域の方と連携し、地域の方と気持ちを通わせながら、大学で習った知識や技を現場で活かす…そんな「実感を伴う学び」に赴くことを求めています。これが本事業の第2のウリです。

「上手くいくかなぁ」と不安な人も居るかもしれませんが、安心してください。こんな（先の見えない…笑）学びの冒険をサポートするため、事務局と選考委員会は、支援団体決定の後も、アドバイスや他団体との交流の場を用意しています。これが第3のウリです。

実はこんな体験は、地域活動が盛んな、そして学生さんを大切にする気風に満ちた京都でなければできない、とても贅沢な学びなのです。文化庁の京都への移転決定を契機に、「文化粹」という粹も設けられています。「地域の文化」「地域で文化」…ん？、文化ってなんや？…みんなで面白がってみてください。待っています。



(公財) 大学コンソーシアム京都 学まちコラボ事業担当  
TEL : 075-353-9130 / FAX : 075-353-9101  
(※日・月を除く 9:00~17:00)  
Mail : gakumachi-admin-ml@consortium.or.jp  
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

京都市総合企画局総合政策室（大学政策担当）  
TEL : 075-222-3103 / FAX : 075-212-2902



検索

学まちコラボ



発行：京都市総合企画局総合政策室  
京都市印刷物 第303239号 平成31年3月



この印刷物が不要になれば  
「雑がみ」として古紙回収等へ！

